

愛媛たいき農協における大洲市和牛改良組合に対する営農指導

社団法人 全国農業改良普及支援協会 専門調査員 関澤 晋朗

大洲市和牛改良組合は、愛媛たいき農協組合員の肉用牛飼養農家で構成する肉用牛生産者協議会のうちの繁殖牛飼養農家が、肉用牛登録協会への加盟による繁殖牛の資質改良の促進や組織活動による生産技術の向上等を目的に結成した組織である。愛媛たいき農協では和牛改良組合を対象として繁殖牛飼養農家の指導・支援に取り組んでいる。

営農指導・支援内容は平成 11 年の表彰事業参加当時と大きな変化はなく、以下のものである。①優良雌子牛導入・保留の支援：優良な母牛確保を目的に、優良雌子牛の導入と管内生産雌子牛の選抜による自家保留を支援するもので、具体的には、農協は県単の繁殖牛基盤整備事業（優良認定牛制度）に、助成金を加算し、導入・保留雌子牛 1 頭当たり 10 万円を助成して優良母牛の確保を支援している。本支援により毎年 20～30 頭導入・保留している。②優良種雄牛の精液確保と指定交配の奨励：農協は農家の繁殖母牛の血統を把握し、また精液を家畜改良事業団から確保して人工授精を行っている。そこで農協では飼養農家の母牛の系統によって種雄牛を選定し、指定による交配を指導して良質子牛生産を支援している。現在農協指導の指定交配が全体の 80%程度に達している。③枝肉研修会：この活動は、和牛改良組合が肥育牛飼養農家を含む肉用牛生産者協議会と密接な関係のもとで組織された組合であるという特徴を活用した取り組みである。研修会は、協議会の肥育牛飼養農家と共同して行うもので、肥育牛飼養農家が検討対象牛を選定し、対象牛の生体チェックと枝肉成績を踏まえて、肥育牛飼養農家は肥育牛の飼料給与や日常管理等について検討し、一方、和牛改良組合員の 1/3 程度が参加する繁殖牛飼養農家は母牛の資質や種雄牛の選定等について検討して、繁殖母牛の資質改良や良質子牛の生産に役立てている。④定期的巡回による飼育技術の改善：農協では毎月 1 回、産子牛の登録や出荷子牛把握等のために繁殖牛飼養農家を巡回し、同時に飼養管理技術や施設の改善について助言・指導している。また、定期巡回による出荷子牛の把握は、購買者から要望されている出荷子牛の削蹄、の必要頭数確認にもなるため、和牛改良組合と連携し、削蹄師と各農家の削蹄日を調整して出荷子牛の削蹄の徹底に取り組んでいる。

管内の繁殖牛飼養は戸数、頭数ともに減少しているものの、以上のような営農指導・支援により出荷子牛の販売価格は出荷先である野村市場全体と比較しても遜色はなく、また出荷子牛の約半分が管内肥育牛飼養農家の素牛として購入されており、和牛改良組合員は依然として地域肥育牛飼養農家への素牛供給機能を担っている。

愛媛たいき肥育センター：地域のキャトルステーションの役割を担う

